

ある日、心電図検査の電極をつけようと患者さんの足元をふと見ると、  
「カラフルに繕われた靴下」が目に入りました。

## 『 darning (ダーニング) 』



- ◆ 履きこんですり減った靴下
- ◆ お気に入りのニットに開いた穴
- ◆ 洗っても落ちないシミ汚れ…



余談ですが・・・  
私の故郷、長崎では  
この破けていることを  
「じゃがいも」  
と呼びます。

それらを針と糸で修繕するヨーロッパの伝統的な針仕事です。

昨年、このダーニングのことを知り、とっても気になっていたことを思い出し・・・  
購入してしまいました！（形から入るタイプです）



この作業に欠かせないのがキノコ型の道具、  
「ダーニングマッシュルーム」といいます。  
これに生地を被せてちくちくと縫っていくわけです。  
※お玉や、ガチャガチャの丸いケースなどでも代用できます。

ダメージに合わせていろいろなダーニング手法があります。



タンバリンダーニング

ゴマシオダーニング

ちょっと余った毛糸や、刺繍糸を使って、  
リボンやビーズなんかを組み合わせても  
かわいらしくなります。

バスケットダーニング

繕った跡を目立たせないようにというのが従来からの方法ですが、  
あえて修繕部分を隠さず、「装飾にしまおう！」という装飾ダーニング。

これまで、穴が開いてあきらめていた衣服も、  
こうやってダーニングすることで、さらに自分好みのものへ変化し、愛着が湧いてきます。

ダメージを受けた衣服を捨てるのではなく、新しく生まれ変わらせていく「ダーニング」を  
試してみませんか。